

国内初のLPG焼きエンジン受注

■ 川崎重工、クミアイ向け新造VLGCに搭載

川崎重工業は11日、くみあい船舶100%出資のシンガポール船主クミアイ・ナビゲーションの大型LPG船(VLGC)向けに、LPG(液化石油ガス)を燃料として使用できる2元燃料ディーゼルエンジン「ME-LGIP」を受注したと発表した。国内エンジンメーカーとしては初。川重が坂出工場で建造する国内初のLPG焼きVLGCに搭載する。

受注したのは、重油とLPGの双方に対応できる船用電子制御式LPGインジェクションディーゼル機関「川崎-MAN B&W 7S60ME-

C10.5-LGIP」。神戸工場で製造し、2020年9月に坂出工場でLPG船に搭載する予定だ。

また、川重独自開発の環境対応型複合システム「K-ECOS Lite」も搭載する。同システムは排気再循環(EGR)と過給機カットシステム、廃水処理システムで構成され、燃料消費率低減と窒素酸化物(NOx)3次規制対応を同時に達成する。

LPGは、燃料として使用した際に従来型の重油焼き2サイクルディーゼル機関に比べて硫黄酸化物(SOx)排出量が90%以上

減らせるなど、環境型の代替燃料として期待されている。MANのLPG焼きエンジンはこれまでクミアイの新造船のほかに、エクスマールが建造する新造LPG2隻(韓進重工フィリピン建造)と中国の天津西南海運の新造LPG船1隻(江南造船建造)の新造船計3隻への搭載と、BWガスの既存のLPG船4隻へのレトロフィット搭載が決まっている。

【川崎-MAN B&W 7S60ME-C10.5-LGIP概要】出力1万2850kW、回転数84rpm、シリンダ直径600mm、シリンダ数7